第３次大仙市観光振興計画
（案）

パブリックコメント用

令和３年３月（完成予定）

【目次】

序　章／ 計画について

1　計画の位置付け　・・・・・・・・・・・・　3

第１章 ／ 観光の動向

1　全国の観光動向　・・・・・・・・・・・・　4

2　東北の観光動向　・・・・・・・・・・・・　6

3　秋田県の観光動向　・・・・・・・・・・・・　8

第２章 ／大仙市の観光

1　第２次大仙市観光振興計画の振り返り・・・・・・・・　9
　基本方針１　豊かな素材を活かした観光資産の確立
　基本方針２　温かい心で迎えるおもてなし力の向上
　基本方針３　人々の心を惹きつける魅力的な情報発信
　基本方針４　未来へ繋がる強固な観光基盤の整備

2　大仙市観光の状況と課題　・・・・・・・・・・・・　１４

3　市民による市政評価　・・・・・・・・・・・・　１８

第３章 ／基本理念と数値目標

1　観光振興計画の基本理念　・・・・・・・・・・・・　１９

2　観光振興計画の数値目標　・・・・・・・・・・・・　２１

第４章／ 基本方針と重点施策

１　観光振興計画の基本方針　・・・・・・・・・・・・　２３

２　重点施策とアクションプラン　・・・・・・・・・・・・　２５

▶基本方針1：知ってもらう！
（プロモーションの強化）　・・・・・・・・・・・・　２５

▶基本方針2：来てもらう！
（受入れ体制の整備）　・・・・・・・・・・・・　２７

▶基本方針3：満足してもらう♪
（観光コンテンツの開発）　・・・・・・・・・・・・　２９

第５章 ／ 観光振興計画の推進

１　連携と協働による効果的な取組の推進　・・・・・・　３３

２　計画の進捗管理　・・・・・・・・・・・・　３３

３　計画の評価体制　・・・・・・・・・・・・　３３

資料編

序　章＼　計画について

1　計画の位置付け

第3次大仙市観光振興計画（以下「計画」という。）は、第2次大仙市総合計画において設定している将来都市像「人が活き人が集う夢のある田園交流都市」の実現に向け、観光面から推進するため、施策の大綱「観光の振興」及び施策「魅力ある観光地づくり」を具現化する計画として位置付けます。

また、各種関連計画との連携を図りながら、本計画の推進を図ります。

■上位計画

第2次大仙市総合計画
（平成28年度～令和7年度）

「人が活き人が集う夢のある田園交流都市」
～こころをつなぎ　希望にみちた未来の創造へ～

大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略

総合計画の主要施策

＜施策の大綱＞
1-4 観光の振興

＜施策＞
1-4-1 魅力ある観光地づくり

＜基本事業＞
① 魅力的な観光地づくりの推進
② 関係団体等との協働による取組の推進
③ 外国人観光客のための基盤整備

第3次大仙市観光振興計画
（令和3年度～7年度）

■関連計画

- 大仙市花火産業構想第Ⅱ期（令和元年度～5年度）
- 第3次大仙市スポーツ推進計画（令和元年度～5年度）
- 第4次大仙市農業振興計画（令和3年度～7年度）
- 大仙市農業と食に関する活性化基本構想（令和2年度～7年度）
- 「花火のまち大仙市」第2期移住・定住促進アクションプラン（令和2年度～4年度）

等

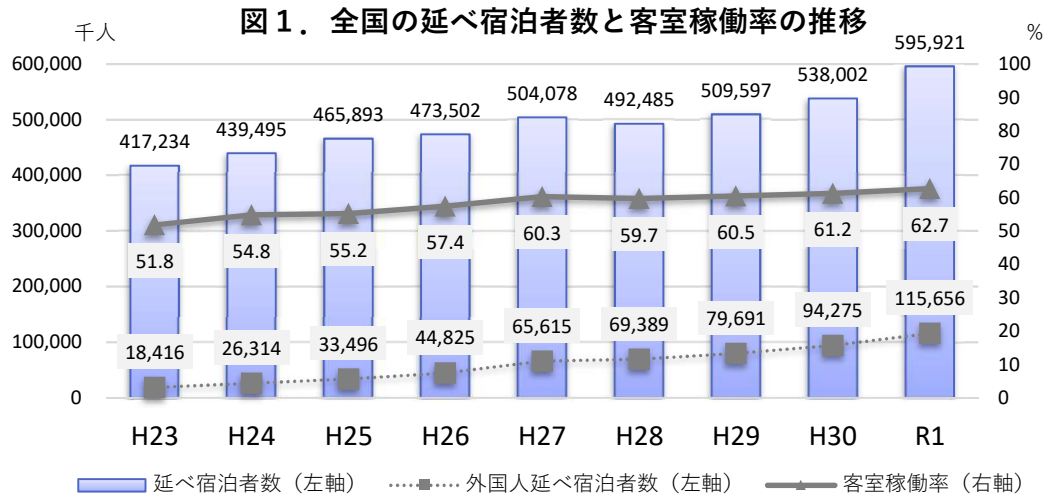
第1章 観光の動向

1 全国の観光動向

（1）全国の観光の状況

全国における延べ宿泊者数は、平成28年をのぞいて増加傾向にあります（図１）。特に、外国人延べ宿泊者数は平成23年以降大幅な増加率となっており、令和元年は23年比で約6倍まで増加しました。宿泊施設の稼働率についても概ね増加傾向となっていることから、延べ宿泊者数の伸びを外国人宿泊者が支えていると考えられます。

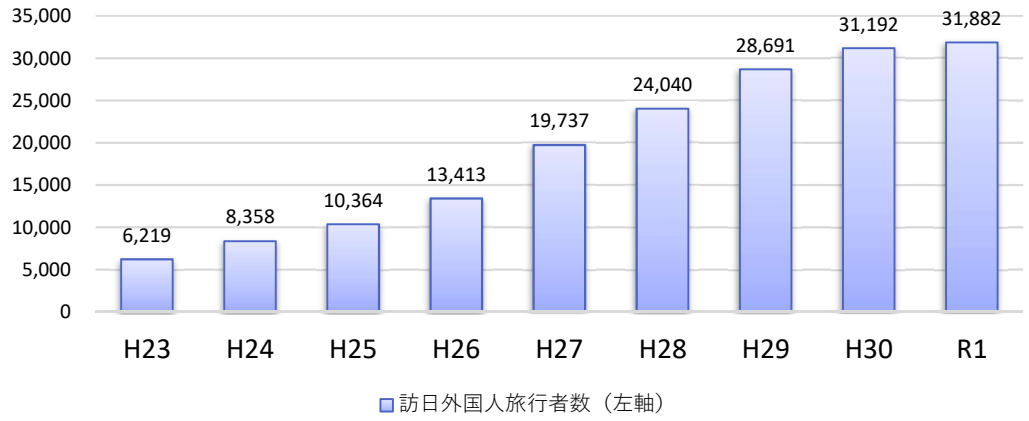
図１．全国の延べ宿泊者数と客室稼働率の推移



資料）観光庁「宿泊旅行統計」を基に作成

全国の訪日外国人旅行者数は平成27年以降、増加傾向が顕著となっています（図2）。これは、国において「観光先進国」への新たな国づくりに向け、平成28年に訪日外国人を6,000万人に増やす（2030年(令和12年)目標）「明日の日本を支える観光ビジョン」が策定され、「世界が訪れたくなる日本」を目指した官民一体の取組が奏効したものと考えられます。

図２．全国の訪日外国人旅行者数の推移



資料）日本政府観光局（JNTO）「訪日外国人旅行者数」を基に作成

（2） 国の「観光ビジョン実現プログラム」による取り組み

国では、インバウンド観光を地方創生の切り札、国の成長戦略の柱と位置付け、ビザ緩和や訪日外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充等をはじめとする様々な施策に取り組むことにより振興を図っています。これにより、令和元年の訪日外国人旅行者数は、過去最高となる3,188 万人となり、2年続けて3,000 万人を突破し、7年連続で過去最高を更新しました。

しかしながら、令和2年においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、全方面からの訪日旅行者は大幅に減少し、 令和2年2月の訪日外国人旅行者数は前年同月比58.3%減の108.5 万人、同年3月は前年同月比93.0%減の19.4 万人、同年4月は前年同月比99.9%減の2,900 人となっています。また、国内においても旅行のキャンセル、予約控えや外出自粛の影響を受け、観光需要は大きく減少し、全国の旅行業、宿泊業はもとより、地域の交通や飲食業、物品販売業など多くの産業に深刻な影響が生じています。

これを受け、令和2年7月14日に観光立国推進閣僚会議において、新型コロナウイルス感染拡大による状況への対応を含め、 今後の方針が示され、取り組みが進められています。

「観光ビジョン実現プログラム2020」で示されている今後の方針（一部引用）

Ⅰ．国内の観光需要の回復と観光関連産業の体質強化

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、観光需要が大幅に減少し、観光関連産業に深刻な影響が生じている。
- このため、まずは雇用の維持・事業の継続の支援に注力するとともに、反転攻勢に転じるための基盤を整備し、感染の状況等を見極めつつ、強力な国内需要の喚起策を講じ、国内観光の回復を図る。
- 新型コロナウイルス感染症の状況等を見極めつつ、「GoToトラベル事業」を実施する。
- ワーケーション等の活用など働き方改革とも合致した、より安全で快適な新しい旅行スタイルの普及を図る。
- その上で、国・地域ごとの感染収束を見極め、誘客可能となった国等からインバウンドの回復を図る。

II.インバウンド促進に向け引き続き取り組む施策

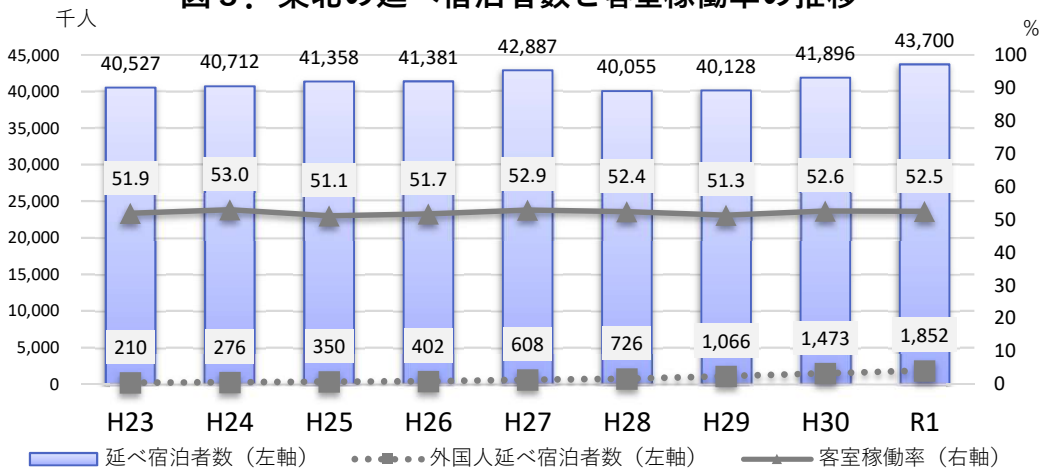
- 国内外の感染症の状況を十分に見極めつつ、インバウンドの再開に備え、これまで進めてきた受入環境整備や新たなコンテンツづくりに引き続き戦略的に取り組む。

2　東北の観光動向

（1）東北の観光の状況

東北における延べ宿泊者数は 平成23年以降増加傾向で推移していましたが、平成28年に大きく減少しました。その後持ち直し、令和元年には平成23年以降で最も多い宿泊者数となっています（図3）。東北の外国人延べ宿泊者数についても一貫して増加傾向にありますが、客室稼働率については50%前半に留まっており、全国の観光動向とは異なり宿泊者数の増加に応じて客室稼働率が上昇していない事がうかがえます。

図３．東北の延べ宿泊者数と客室稼働率の推移

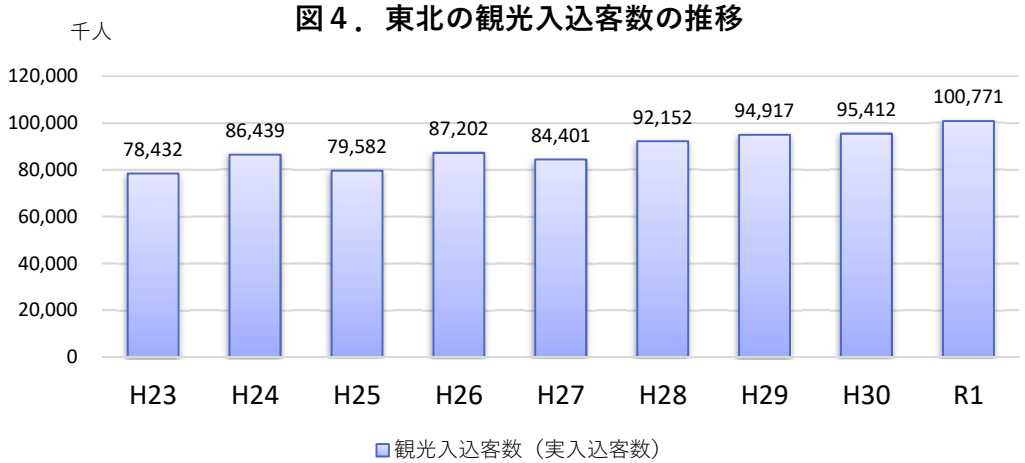


資料）観光庁「宿泊旅行統計」を基に作成

東北の観光入込客数は東日本大震災のあった平成23年以降、平成27年までは増加減少を繰り返していましたが、平成28年以降は増加基調となっています（図4）。

東日本大震災後の東北管内での復興対策の取り組みや訪日外国人誘客をはじめとする国の観光施策の取り組みが奏功したものと考えられます。

図４．東北の観光入込客数の推移



資料）観光庁「共通基準による観光入込客統計」を基に作成

（2）「観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議」の取組方針

東北地方は東日本大震災により甚大な被害を受け、いまだに東北の観光に大きな影響を与えています。平成27年には東北の訪日外国人延べ宿泊者数が震災前の数値を上回り、令和元年には150万人泊を達成したものの、全国シェアは東北6県で1.7%にとどまっています。

東北地方の中長期的な視点にたった観光地域づくりのため、国土交通省東北運輸局のほか観光関係団体で構成される「観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議」により、次のような取組方針が示されています。

「観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議」で示されている今後の方針

（一部引用）

方針１：東北全体としての効果的なプロモーションの方向性

- プロモーションは広域連携組織や複数県連携による取組みが重要であり、桜や紅葉、雪といった季節毎の共通テーマを設定して東北のイメージを発信する。

方針２：復興・創生期間後を見据えた東北としての観光資源の姿やあり方

- 地域が自ら観光資源の掘り起こし・磨き上げを進め、連携・相乗効果を発揮して観光に強い地域を創り上げる必要がある。観光地域づくりを通して地域の価値を伝え、東北と世界をつなぐ架け橋となる取組みを促進する。
- 観光資源の掘り起こし・磨き上げにあたっては、民間団体が積極的に取り組む。また、データ収集・戦略策定、KPI設定、PDCAサイクルの確立・情報共有等により地域の状況を把握し、北海道や関東などの他地域も含めた行政区域にとらわれない、市場の特性を踏まえたテーマやストーリー性のある商品力の強いプログラムを構築する。

方針３：オリンピック・パラリンピック開催等に向けた東北としての観光客の受入体制の整備

- 外国人旅行者がストレスなく快適に旅行を楽しむことができるよう、各種調査結果などのニーズを的確に把握し、東北ならではの観光案内サービスのネットワーク化及び統一的な情報発信、Wi-Fi・多言語表記・決済環境の整備、ハラール対応などの推進・支援、異種文化対応のための研修実施による人材育成など、東北が一体となって受入環境整備の取組みを推進する。
- 取組については、オリンピック・パラリンピック開催等に向けた受入体制の整備にとどまらず、開催後も見据えた長期的な視点で推進する。

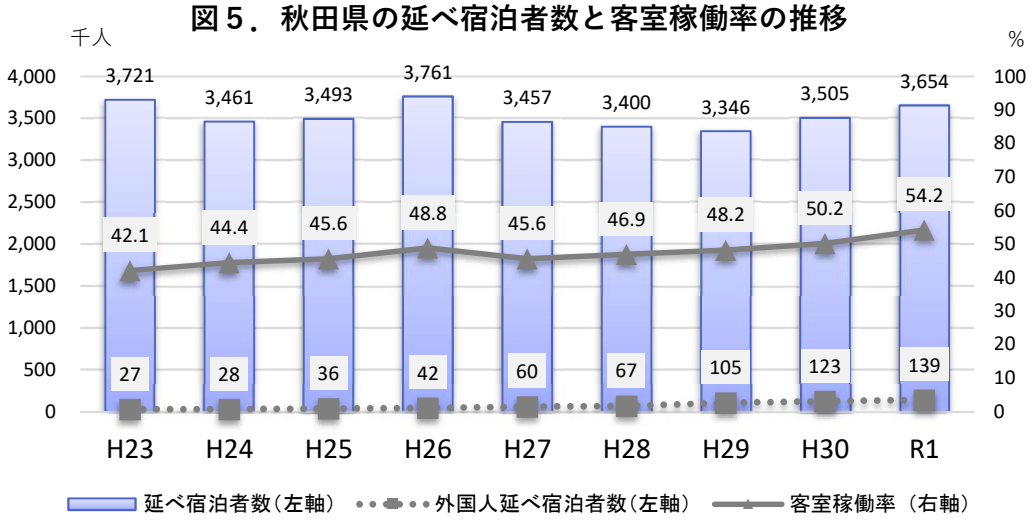
3　秋田県の観光動向

（1）秋田県の観光の状況

秋田県における延べ宿泊者数は 平成26年に3,761千人を記録した以降、減少傾向となっており、平成30年と令和元年には再び増加傾向に転じたものの、平成26年の水準を超えていない現状となっています（図5）。

外国人延べ宿泊者数は一貫して増加傾向にありますが、東北及び全国の増加割合に比べると低く、訪日外国人を効果的に県内に呼び込めていない結果となっています。

図５．秋田県の延べ宿泊者数と客室稼働率の推移

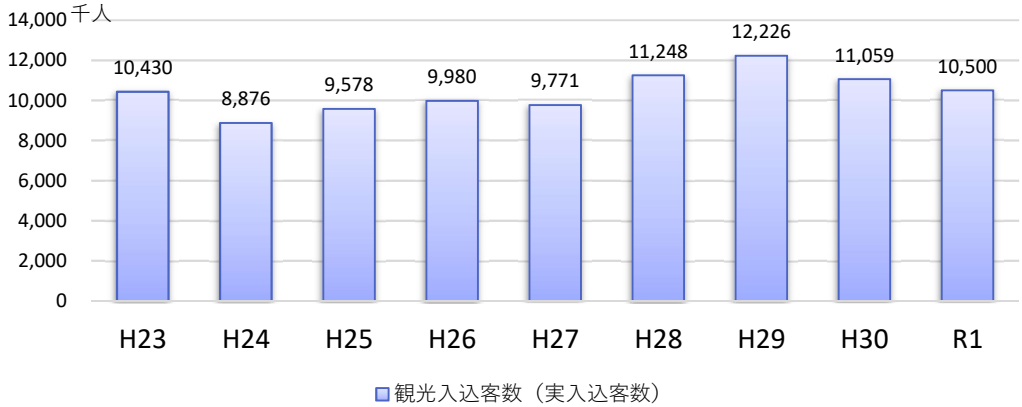


資料）観光庁「宿泊旅行統計」を基に作成

秋田県の観光入込客数は、東日本大震災のあった平成23年以降落ち込みがありましたが、平成28年において震災以前の水準を回復しています（図６）。

その後平成29年においてピークとなっているものの、平成30年及び令和元年ともに減少しており、本県への観光入込客の確保が課題となっています。

図６．秋田県の観光入込客数の推移



資料）観光庁「共通基準による観光入込客統計」を基に作成

第2章＼　大仙市の観光

1　第２次大仙市観光振興計画の振り返り

本市では平成28年3月に第2次大仙市観光振興計画を策定し、国や県の政策と大仙市総合計画における市政の方向性を踏まえながら、「花火と自然が調和した癒しのまち　だいせん」を基本理念とし、理念に基づいた4つの基本方針を掲げ観光振興施策を進めてまいりました。

第2次大仙市観光振興計画の4つの基本方針に関する主な取組は、次のとおりです。

▶基本方針１　豊かな素材を活かした観光資産の確立

<u>戦略１　花火を核とした花火産業構想※の推進</u>

「大曲の花火」が持つブランド力を活かし、大仙市花火産業構想アクションプランに掲げる各事業を実施しました。

※本市では日本最高峰の花火競技大会、全国花火競技大会「大曲の花火」が有するブランド力を最大限活かし、大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会、一般社団法人大仙市観光物産協会の四者で製造業や観光、商業、農業、　文化、教育など様々な分野にまたがる発展軸を形成して地域を元気にしようとする、花火産業構想に取り組んでいます。

〈主な取組〉

・花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」の開館

・四季の「大曲の花火」の開催とPR

・首都圏等での花火を主とした観光・物産展の開催

・花火ダリアの開発

・花火に関わる人材の育成

・「花火のまち　大仙市」ビジュアルアイデンティティの制作

・花火のまちのお土産商品ブランドの開発

まるごと秋田だいせんin仙台

秋田・大仙　せんのぜん

戦略２　観光資源の更なる磨き上げ

花火、自然、文化財、スポーツイベントなど豊富な観光資源を相互に絡めながら、魅力あふれる観光資源へと磨きあげました。

〈主な取組〉

・文化財の観光施設としての磨き上げ

・全国500歳野球大会の開催

・スポーツ合宿の誘致

全国500歳野球

戦略３　新たな観光（地域）資源の発掘

多様化する観光客のニーズに合った、特徴ある新たな観光資源の創出を図りました。

〈主な取組〉

・花火玉づくりなど体験型観光コンテンツの発掘

模擬花火玉づくり体験

▶基本方針２　温かい心で迎えるおもてなし力の向上

戦略４　サービス力の向上

「大仙市ならではの温かいおもてなし」を追求し、人材育成を図りました。

〈主な取組〉

・市内事業者等を対象とした「おもてなしマイスター」認定講座の開催

・国際花火シンポジウムに合わせ、英会話講座開催による外国人対応の強化

「おもてなしマイスター」認定講座

英会話講座

▶基本方針３　人々の心を惹きつける魅力的な情報発信

戦略５　プロモーションの強化

市内の観光資源と温かいおもてなしについて強くアピールし、多くの方々から大仙市に注目していただけるような取組を行いました。

〈主な取組〉

・観光ガイドマップの改良

・SNS※を活用した情報発信
※ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称

・観光PR映像の制作

・マスコットキャラクター「まるびちゃん」を活用した観光PR

大仙市公式キャラクター
「まるびちゃん」

戦略６　連携の拡大と強化

関係団体や近隣市町村、県などと連携した取組のほか、広域範囲での観光誘客や友好交流都市との交互イベント参加を実施しました。

〈主な取組〉

・広域連携による首都圏等での観光PR

・友好交流都市、有縁交流都市との交互イベント参加

・秋田市、男鹿市、仙北市との連携によるFIT（外国人個人旅行者）受入環境整備事業の実施

・仙北市、美郷町との連携によるインバウンドサイクリング事業の実施

▶基本方針４　未来へ繋がる強固な観光基盤の整備

戦略７　回遊性の向上

個々の観光コンテンツを総体的に結びつけることにより、市内の賑わいと交流促進を図りました。

〈主な取組〉

・観光スポットを巡るスタンプラリーの実施

・JRとの連携による「駅からハイキング」の実施

戦略８　インバウンド観光の推進

国際花火シンポジウムの開催を契機に、外国人観光客の受入態勢整備などインバウンド観光の推進を図りました。

〈主な取組〉

・国際花火シンポジウムの開催

・海外向け観光PR映像の制作

・台湾でのトップセールス参加

・タイでの旅行商談会参加

・外国人対応案内看板の整備

・多言語での観光ガイドブック作成

・道の駅、温泉施設でのWi-Fi環境整備

・台湾から旅行エージェント、パワーブロガーを招聘

・クルーズ船寄航を活用した観光PR

国際花火シンポジウム

秋田港クルーズ船向け観光PR

戦略９　観光教育の推進

本市の将来を担う児童、生徒に対し観光分野に関する知識向上の機会を与え、郷土愛の醸成を図りました。

〈主な事業〉

・インターンシップの受入

・市内中学校での観光に関する講演

インターンシップの受入

第２次観光振興計画の実績

四季の「大曲の花火」構想に基づき、の平成28年に「春の章」が初開催され、平成29年は「国際花火シンポジウム」、「ねんりんピック」の秋田県開催、「新・秋田の行事in大仙」などが開催され、大きく観光入込客数（図７）の増加に寄与しました。

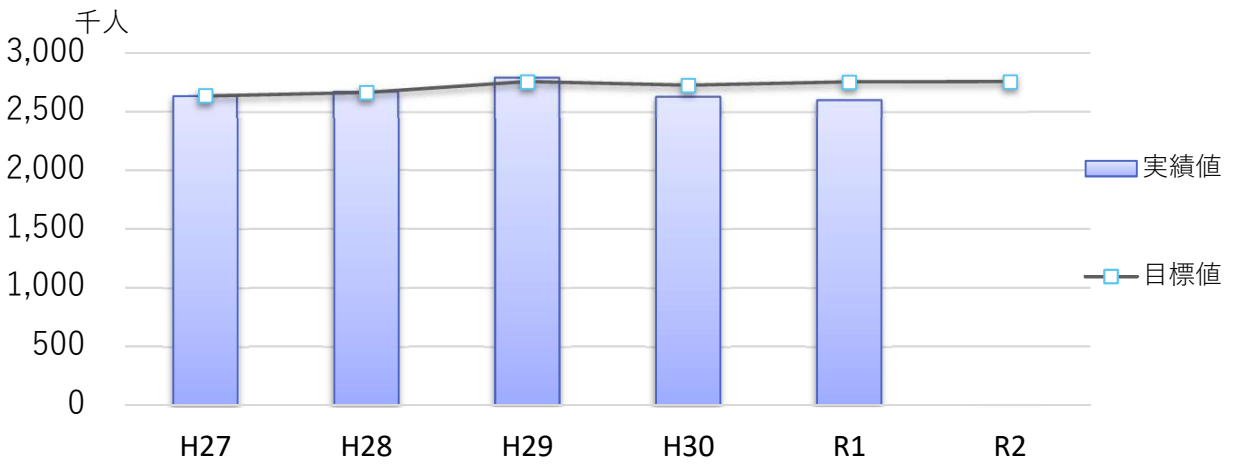
平成30年は旧池田氏庭園の一般公開や花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」開館などの通年観光に向けたコンテンツの充実が図られたものの、大型イベント開催以前の平成28年と同規模程度となっています。

平成31年（令和元年）は台風等の影響によるドンパン祭りの中止や秋の章の延期、新型コロナウイルスの影響により観光入込客数は減少する結果なっています。

さらに、令和元年３月頃から感染が拡大した新型コロナウイルスは、令和２年度のすべての観光事業に影響を及ぼし、「大曲の花火～冬の章～」及び「大曲の花火～春の章～」は初の中止、夏の全国花火競技大会は来年に延期となり、その他の大規模イベントも全て中止を余儀なくされ、観光入込客数は他に例を見ない落ち込みとなる見込みです。

図７．大仙市観光入込客数（1月-12月ベース）

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2
目標値	2,632	2,661	2,750	2,720	2,747	2,750
実績値	2,632	2,668	2,783	2,626	2,599	-



資料）大仙市「観光統計調査」を基に作成

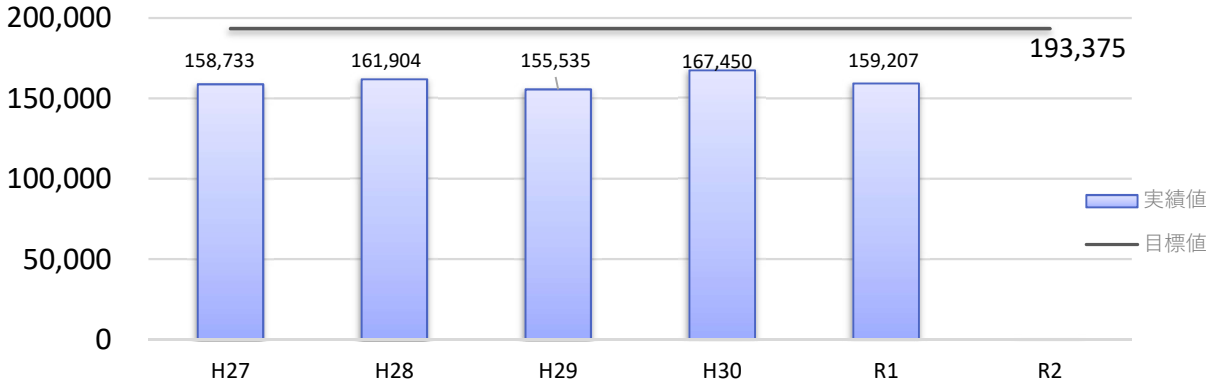
宿泊客数については、全国的に延べ宿泊者数は増加傾向にあるものの、インバウンド需要によるものが大きく、外国人観光客の割合が低い大仙市においては横ばいとなっています（図８）。令和元(平成31）年度に関しても前年割れ（-0.4ポイント）の状況となっています。

全体としての割合は低いものの、外国人宿泊者数は大仙市においても増加傾向にあり（図９）、特に平成29年は国際花火シンポジウムの影響により大きく外国人宿泊者数の増加に寄与しました。

観光入込客数は、イベントや気候などにより増減しているものの、宿泊客数と関連性が見られず、本市は通過型観光の形態が見られます。

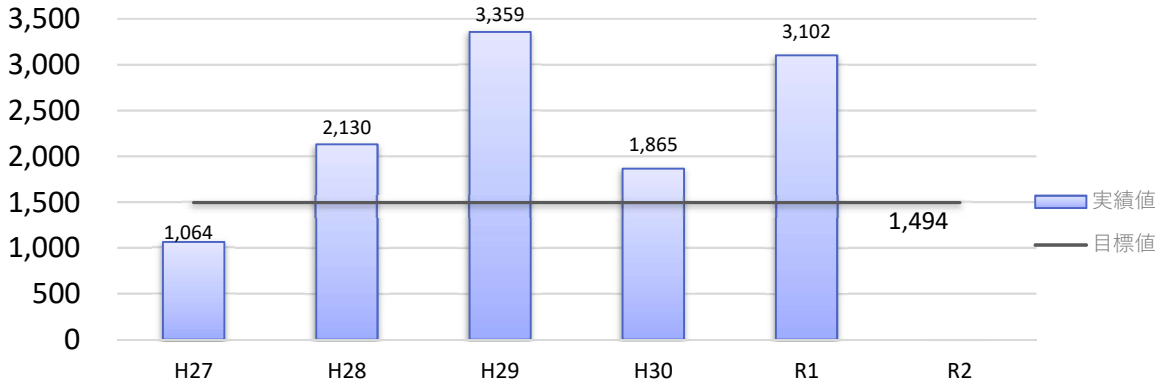
また、新型コロナウイルスの影響は宿泊客数にも大きく影響を及ぼし、令和2年3月以降の感染拡大に伴い発令された緊急事態宣言後の4月・5月の宿泊客数は前年比で－76.0ポイントと大きく落ち込みが見られました。

図８．大仙市宿泊客数（1月-12月ベース）



資料）大仙市「観光統計調査」を基に作成

図９．大仙市外国人宿泊客数（1月-12月ベース）



資料）大仙市「観光統計調査」を基に作成

2　大仙市観光の状況と課題

大仙市の自然

本市は四方を山に囲まれ、東に奥羽山脈、西に出羽丘陵が縦走し、その間を流れる雄物川とその支流である玉川にそって田園風景が広がり、四季折々の美しい表情を見せています。特に東部山岳地帯には、昭和50年に自然公園に指定された「真木真昼県立自然公園」があり、渓谷探勝と登山に適した山岳公園として知られています。

「真木真昼県立自然公園」では例年16,000人前後の来訪者がありましたが、平成27年度の豪雨災害により登山道が２シーズン使用できなかった影響で、12,000人程度の来訪者にとどまっています。

当該自然公園は、一部の登山愛好家を除き認知度が低い状況の中でも、４割程度が県外来訪者で、国内各地への積極的な情報発信や環境整備を行うことで観光客を呼び込む可能性を有しています。今後は国内各地や海外からの誘客に向けて、県や美郷町と連携した取組が必要となってきます。

【参考】真木真昼県立自然公園入込客数　（単位：人）

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1
入込客数	16,893	6,087	630	1,650	12,198	11,801

真木真昼県立自然公園

大仙市の農業と食

本市は、雄物川とその支流で東西に流れる玉川を軸に広大な仙北平野が広がり古くから水運と農業により栄えてきたまちで、秋田県南産「あきたこまち」の主産地であり、秋田県第１位となる米の収穫量を誇る穀倉地帯です。

このように、本市は恵まれた自然環境のもと、大豆や、枝豆・トマト・花きをはじめとする園芸作物などの優れた農畜産物のほか、県内一の生産を誇るいぶりがっこ、9つの酒蔵を有する日本酒など豊富な発酵食品を有しています。

令和2年度には、新型コロナウイルスの影響により各酒蔵の売上が落ち込む中、「大仙市産米で醸す日本酒ブランディングプロジェクト」と銘打って市内５つの酒蔵（出羽鶴酒造・刈穂酒造・金紋秋田酒造・奥田酒造店・鈴木酒造店）が大仙酒蔵統一ラベルを作成するなど、県内トップの酒蔵数を有する本市の強みを生かした取り組みが行われました。

また、新型コロナウイルスを契機に、休暇を楽しみながらテレワークを行う「ワーケーション」の取組が首都圏の企業を中心に行われており、ワーケーションの一つとして、農業と休暇を組み合わせたアグリワーケーションなどが注目を集めています。田植えやイチゴ摘み取り体験などの農業体験のほか酒蔵見学など農業と食を活用した体験コンテンツは新たな需要に向けた対応が求められます。

イチゴ摘み取り体験

大曲納豆汁

酒蔵見学（鈴木酒造店）

大仙市の文化財

本市には、秋田県内唯一の国宝である「線刻千手観音等鏡像（せんこくせんじゅかんのうとうきょうぞう）」や県内初の国指定重要文化財である「古四王神社本殿」、国指定史跡「払田柵跡」、庭園としては県内初の国指定名勝となった「旧池田氏庭園」をはじめとした数多くの国県市指定文化財や貴重な文化遺産が伝承されています。国登録有形文化財の「旧本郷家住宅」は、他の旧地主屋敷群ともに環境整備が進み「川のまち歴史交流の杜」として、角間川地区の街並みとともに観光活用が期待されています。

国指定重要無形民俗文化財の「刈和野の大綱引き」や県指定無形民俗文化財の「大曲の綱引き行事」などの無形文化財となっている小正月行事も多くあり、冬の観光誘客の目玉となっているものも多く存在しています。

平成30年から旧池田氏庭園、平成31年から旧本郷家住宅の一般公開が行われています。文化財保護法の改正により文化財群を総合的に活用する取組が求められているなか、両施設では旧池田氏庭園のライトアップや旧本郷家住宅を活用したランチプランなど文化財の観光活用も活発に行われております。今後は、地域住民などの理解を得ながら、文化財の保護と観光活用の両立を進めていくことが必要となっていきます。

国指定名勝　旧池田氏庭園

国宝　線刻千手観音等鏡像

国指定重要無形民俗文化財
刈和野の大綱引き

国登録有形文化財　旧本郷家住宅

大仙市のスポーツ

本市では、これまで県内外からのスポーツ合宿やプロスポーツチームの試合等の誘致し、全県規模のスポーツイベントを開催してきました。

特に、本市が発祥の地である500歳野球※については毎年4,000人以上の選手が参加する「全県500歳野球大会」のほか、平成29年からは「全国500歳野球大会」が開催され、「野球に燃える親父たちの甲子園」というキャッチフレーズのもと全国各地から多くの参加をいただいております。

「秋田太田奥羽グラウンド・ゴルフ場」は、国内屈指の広さとロケーションを誇り、全国から多くの愛好者が集っています。南部忠平杯グラウンド・ゴルフ大会など、全国規模の大会のほか、各種大会が毎年開催されています。

市内には野球場や体育館、室内練習場をはじめとした体育施設が充実しており、さらに今後は多目的人工芝グランドの整備なども予定されています。大仙市には県内外から多くの団体がスポーツ合宿に訪れ、リピート率も高くなっています。

また、「協和スキー場」・「大曲ファミリースキー場」・「大台スキー場」と3つのスキー場があり、それぞれの特色を生かしたコースを堪能することができます。スキー場は観光入込客数が落ち込む冬期間の主力コンテンツであり、引き続きPR強化が必要となるとともに、オフシーズンである夏期の活用についても検討が必要となります。

※生涯現役で野球をプレーし続けられるよう、「出場選手9人の年齢合計を500歳以上」とする、独自ルールの野球大会

秋田太田奥羽グラウンド・ゴルフ場

協和スキー場

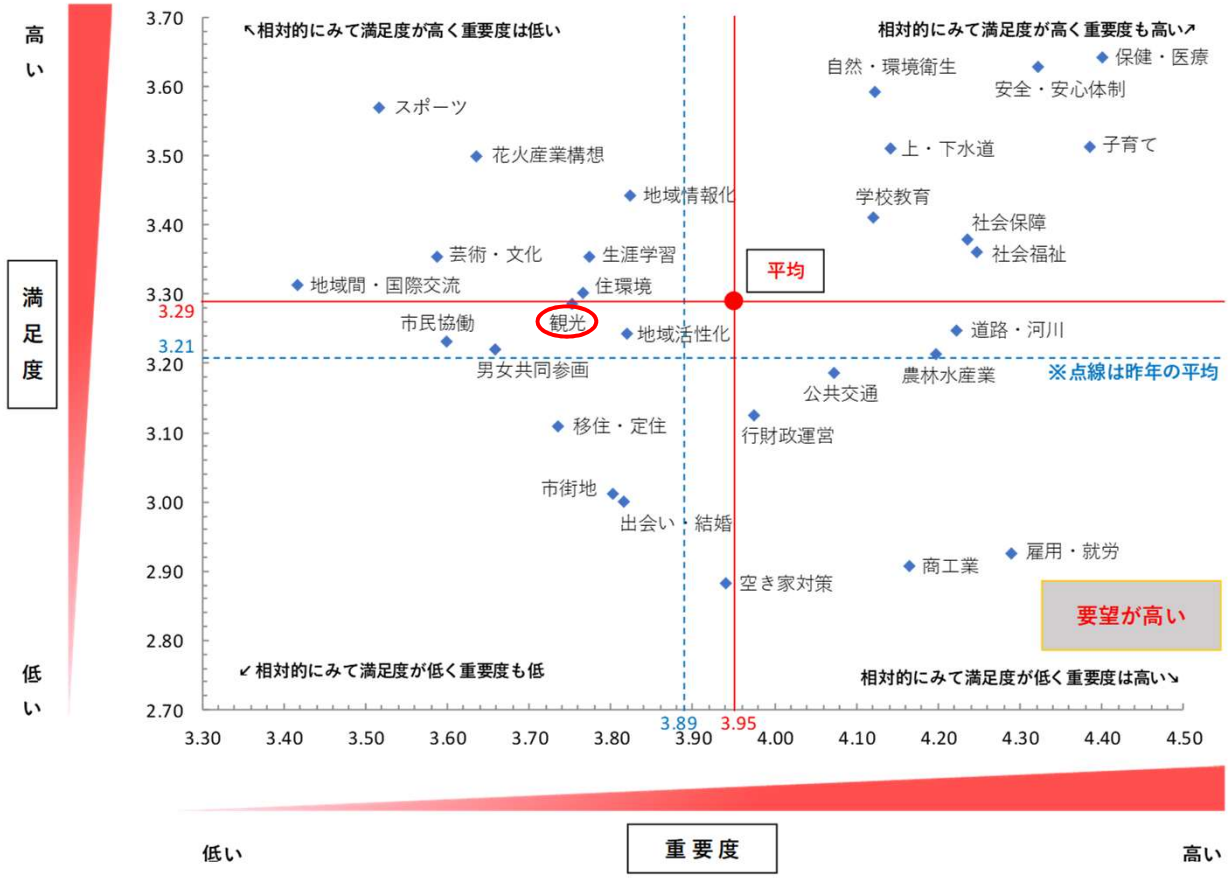
大台スキー場

3　市民による市政評価

令和2年度の「市民による市政評価」では「観光」項目が「満足度:3.29」・「重要度:3.75」と、満足度が平均並みながら、重要度は平均を下回る評価となっています。

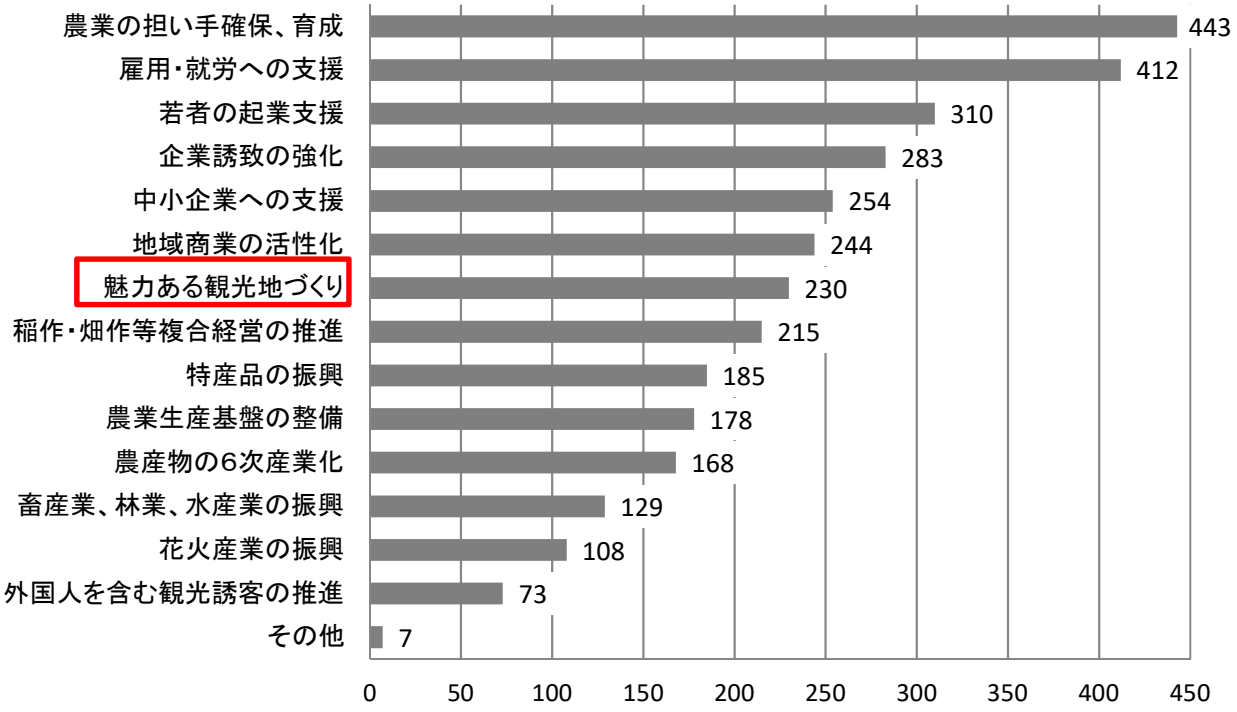
推進するべき分野においては、「魅力ある観光地づくり」が上位となっており、特に10代から30代の若い世代において「魅力ある観光地づくり」が他の年代に比べて高い傾向があります。観光産業が航空や鉄道・バスなどの運輸業、旅館・ホテルなどの宿泊業、観光施設、レストランや土産店、イベント・コンベンション業、ガイド、旅行会社などすそ野が広い産業であるにも関わらず、10代から30代以外の市民からはその重要性が認識されていない状況がうかがえます。

資料）令和２年度 市民による市政評価　満足度・重要度の項目別比較



大台山からの眺望

資料）令和２年度 市民による市政評価　さらに推進すべき取り組み　（回答数順）



第3章　基本理念と数値目標

1　観光振興計画の基本理念

本計画では全国的なブランド力がある「大曲の花火」を本市の観光PRに最大限活用し、「花火振興」と「観光コンテンツ」の共創として、「観光誘客から観光消費へ」をスローガンに、観光誘客だけでなく観光消費の増加を目指すものとします。

本市の最大の強みである大曲の花火ブランドを最大限に生かし、豊かな自然、優れた農産物と雪国ならではの食、県内唯一の国宝をはじめとする数々の文化財、500歳野球などのスポーツイベントなど、さまざまな分野の関係者が共に協力し、満足度の向上を目指します。

旅行者目線に立ち、旅行者が目的としたイベント・施設以外も訪問してもらえるような情報提供を行い、旅行者の滞在時間と消費行動の増加を目指します。

自　然

「真木真昼県立自然公園」の露出強化を行い県外での認知度を「白神山地」・「鳥海山」並みに高めるとともに、従来からの登山愛好者にはトレッキング・登山だけではなく、市内周遊を促し、滞在時間の増加を目指します。

農・食

市内の農家民宿や農業法人と連携し、農産物のPRとともに農業体験やイチゴ摘み取り体験などの観光要素のPRを強化します。

大仙市農業振興計画や大仙市農業と食に関する活性化基本構想と連携し、本市が誇る発酵文化を活用して「大仙市うまい米・うまい酒」都市宣言により国内外へ向けたPRにつなげます。

文　化

文化観光資源の魅力について、地域の歴史や文化施設・伝統文化等をストーリー仕立てに構成し、「文化観光パッケージ」として構築するとともに、ガイドツアーの造成を進めます。また、SNS等を活用しながら魅力を広く発信することにより、見学者数の増加を目指します。

スポーツ

大仙市スポーツ推進計画と連携し、他には例がない「全国500歳野球」や県外からのスポーツ合宿など、県外からの参加者が見込まれるスポーツイベントを活用して、大仙市の魅力の発信や市内周遊の仕組みづくりを行います。

「花火振興」と「観光コンテンツ」の共創

大曲の花火
ブランドの活用

→ 大仙市認知度 ↗
競争力 ↗

×

4つの柱を活用した観光振興
- 自　然
- 農・食
- 文　化
- スポーツ

→ 滞在時間 ↗
消費行動 ↗

＝

地域経済効果 ↗

観光振興計画の目指すもの

観光誘客 → 観光誘客 ＋ 観光消費

2　観光振興計画の数値目標（KPI）

本計画では「地域経済効果の増加」を最終目標とし、またその目標につなげるため、「滞在時間（訪問回数）の増加」「観光消費の増加」を測る基準を目標項目として設定します。

数値目標は新型コロナで落ち込んだ需要が令和元年水準に回復するまでの期間を3年間と見込み※、以降の2年間で令和元年基準で10%増を基本値として設定します。観光需要の重点項目となる宿泊者数、大仙市観光物産協会・道の駅の売上額は20%増、また落ち込みが著しい外国人宿泊者数は5%増を目指します。

※「回復まで3年間」の出典
・明治安田総合研究所の「2020―2021年度経済見通しについて」
・国際航空運送協会(IATA)の2020.7.28発表の国際旅客輸送量見通しに関する報道資料

	令和元年(2019年)（現状値）		令和７年(2025年)（目標値）
1　主要観光施設入込客数	1,115　千人/年	110%	1,227　千人/年
2　主要イベント入込客数	965　千人/年	110%	1,062　千人/年

通年観光の促進を目指すため、全国花火競技大会など多種多様な観光イベントや観光施設で集計している観光入込客数から、より通年観光促進の状況が確認できるよう「観光施設」と「イベント」に区分を設け、「施設利用」、「県外・市外から呼び込むこと」が進んでいることを確認するための指標とします。

夏まつり大曲

	令和元年(2019年) （現状値）		令和７年(2025年) （目標値）
3　宿泊者数（全体）	154　千人/年	120%	185　千人/年
4　外国人宿泊者数	3,102　人/年	105%	3,257　人/年

「宿泊」は観光消費の主な指標であり、第３次観光振興計画でも「宿泊者数」を指標とします。現在著しい落ち込みが見られますがインバウンド関連の指標として「外国人宿泊者数」も引き続き指標とします。

5　大仙市観光物産協会のお土産品売上額※	36.7　百万円/年	120%	44.0　百万円/年
6　道の駅３駅の売上額※	317　百万円/年	120%	380　百万円/年

※決算ベースで集計

観光消費を測る指標として、花火産業構想でも採用されている観光物産協会のお土産品売上額を観光振興計画でも新たな指標とします。

また、「道の駅の機能強化」を目指すため、道の駅3駅の売上額も同様に指標として取り入れ、売上額上昇に寄与する施策を実施します。

大曲駅東口大型観光看板

大曲駅ステーションピアノ

第4章＼　基本方針と重点施策

1　観光振興計画の基本方針

旅行者目線で「旅マエ、旅ナカ、旅アト」の観光消費行動を意識し、旅行者が各シチュエーションで生じる課題を解決することで旅行者の満足度向上ひいては再訪問・リピーターの創出につなげます。

基本方針で掲げた「知ってもらう！（プロモーションの強化）」・「来てもらう！（受入れ体制の整備）」・「満足してもらう♪（観光コンテンツの開発）」の方針に基づいた重点施策を設定し、具体的施策であるアクションプランを推進します。

基本方針１　知ってもらう！（プロモーションの強化）

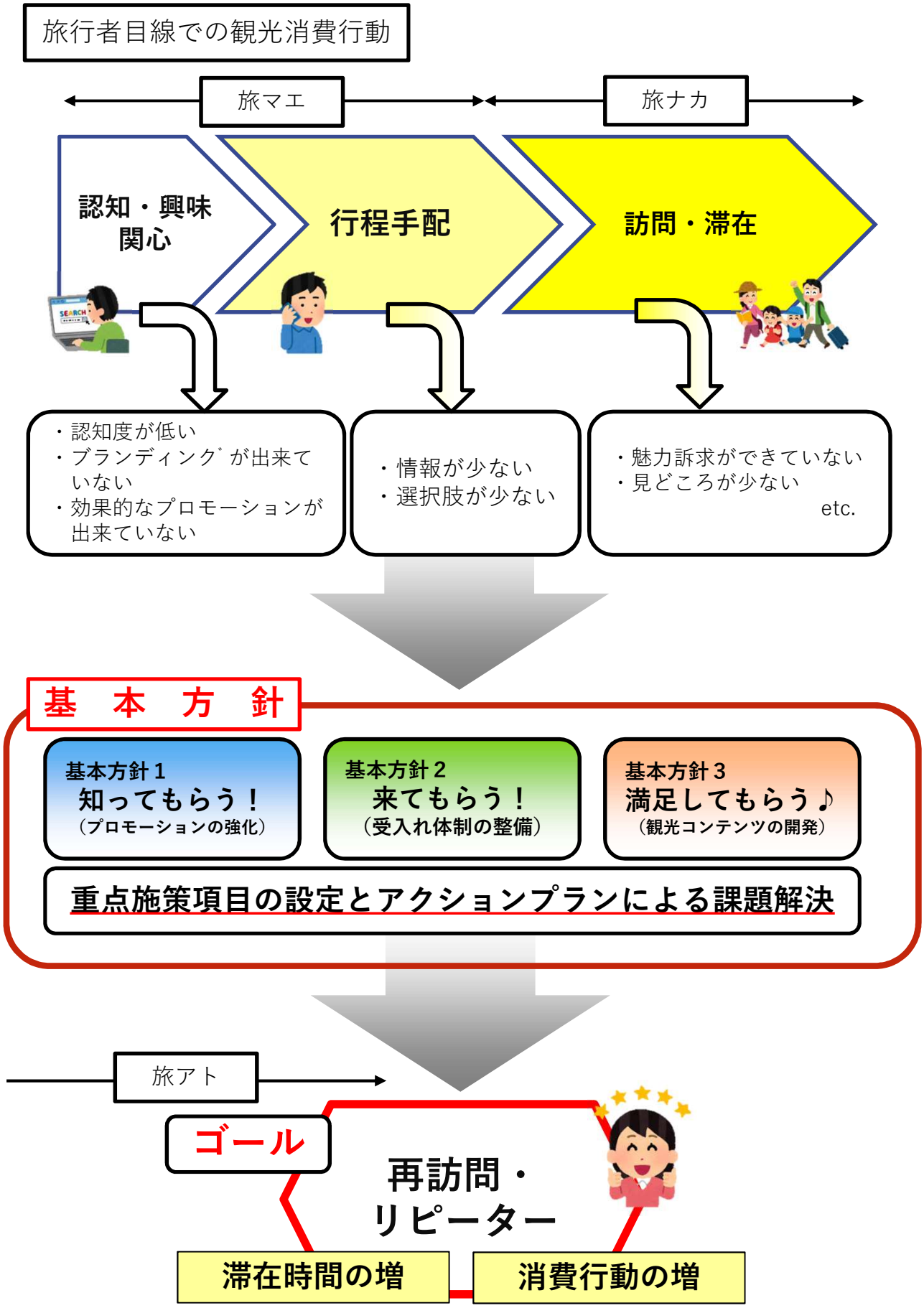
SNS･Webを活用した情報発信を強化するため、国･県などの観光サイト掲載を目指し、積極的な情報提供を行うとともに、県外･首都圏でのPRイベントにより大仙市の情報に触れる機会を増やすことで、認知度向上を目指します。また、観光人材育成のため、児童生徒への観光教育についても推進します。

基本方針２　来てもらう！（受入れ体制の整備）

旅行者の目線を重視し、観光地+宿泊地+食事処など、これまで分散していた情報を複合的に提供できる体制の構築を目指します。二次交通の需要調査を行いながら、真に必要とされる二次交通の体制整備を行います。また、旅行者の満足度向上と観光消費の増加を目指して、「道の駅」及び「大仙市観光情報センター」の魅力アップを図ります。

基本方針３　満足してもらう♪（観光コンテンツの開発）

旅行者の市内周遊を促進するため、観光情報の提供強化と、イベント参加者向けツアーの造成を目指します。本市を訪れた旅行者の満足度を向上させるため、既存の観光コンテンツの磨き上げや、観光関係団体と連携し新たな観光コンテンツの掘起しに加え、大仙市観光物産協会と協力し、観光コンテンツの魅力を伝える観光ガイドの育成と予約手配体制を強化します。「大仙市農業と食に関する活性化構想」で進めている麹商品を、飲食店の新たな魅力づくりのひとつのツールとして活用を推進します。


旅行者目線での観光消費行動
旅マエ
旅ナカ
認知・興味関心
行程手配
訪問・滞在
・認知度が低い
・ブランディング が出来ていない
・効果的なプロモーションが出来ていない
・情報が少ない
・選択肢が少ない
・魅力訴求ができていない
・見どころが少ない
etc.
基　本　方　針
基本方針１
知ってもらう！
（プロモーションの強化）
基本方針２
来てもらう！
（受入れ体制の整備）
基本方針３
満足してもらう♪
（観光コンテンツの開発）
重点施策項目の設定とアクションプランによる課題解決
旅アト
ゴール
再訪問・
リピーター
滞在時間の増
消費行動の増

2　重点施策とアクションプラン

▶基本方針１：知ってもらう！（プロモーションの強化）

重点施策１　魅力の発信事業

アクションプラン１　　デジタル媒体を活用した情報発信
アクションプラン２　　観光ガイドマップ等各種媒体による情報発信
アクションプラン３　　国・県・各観光団体サイト掲載にむけた情報提供
アクションプラン４　　児童・生徒向け観光教育の推進

重点施策２　魅力の売り込み

アクションプラン５　　首都圏への観光PRによる露出強化
アクションプラン６　　フィルム・コミッションによる魅力発信

重点施策	アクションプラン		対応KPI※					
			1	2	3	4	5	6
1 魅力の発信事業	1	デジタル媒体を活用した情報発信	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	2	観光ガイドマップ等各種媒体による情報発信	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	3	国・県・各観光団体サイト掲載に向けた情報提供	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	4	児童・生徒向け観光教育の推進	◎	◎	○	○	○	○
2 魅力の売り込み	5	首都圏への観光PRによる露出強化	○	○	○	○	◎	◎
	6	フィルム・コミッションによる魅力発信	○	○	○	○	○	○

※対応KPI　1.主要観光施設入込客数　2.主要イベント入込客数　3.宿泊者数（全体）　4.外国人宿泊者数
【◎：関連性が高い】　【○：関連性が一定程度ある】

首都圏駅観光キャラバン

出前講座

主な内容	担当課
①SNSを活用した観光情報の発信を強化する。 ②インフルエンサー招待事業を行う。 ③観光コンテンツの市民モニター事業を行う。 ④地域おこし協力隊による観光情報の発信を行う。	観光課
①大仙市の魅力を伝える、リニューアル観光ガイドマップを発行する。 ②観光情報誌、サイトへの露出増を目指し、従来の依頼があった雑誌に掲載するほか、情報誌や交通事業者の機内紙掲載への働きかけを行う。 ③宿泊施設情報の強化を行い、市内宿泊施設の利用促進を図ります。	観光課
①日本政府観光局や東北観光推進機構など、海外向けにコンテンツを発信しているサイトに本市のコンテンツ掲載を目指した情報提供や発信を行う。 ②県や観光連盟等へも積極的に情報提供を行い、HPやSNSへの掲載を目指す。	観光課
①教育カリキュラムの中に、本市の観光に関するプログラムを組み込んでもらえるよう教育関係機関への働きかけを行う。 ②観光分野に関する講師派遣等事業の実施について積極的に学校側へPRを行う。	観光課
①大仙ふるさとフェア等の首都圏観光物産展イベントを開催する。 ②首都圏での観光ＰＲキャラバンに参加する。 ③第二の故郷づくりプロジェクトとして、交流人口や関係人口の増加、移住潜在層等の掘り起こしを目的に首都圏での大仙市講座を開催する。	観光課
①大仙市フィルム・コミッションの活動を促進し、メディアの受入れや観光素材の積極的な提供を行い、メディア露出強化を図る。	観光物産協会

5.大仙市観光物産協会のお土産品売上額　6.道の駅3駅の売上額

▶基本方針2：来てもらう！（受入れ体制の整備）

重点施策３　旅行者目線の情報提供

アクションプラン７　　旅行行程のパッケージ発信
アクションプラン８　　農業体験メニューの情報集約による魅力向上

重点施策４　回遊性の向上

アクションプラン９　　二次交通の体制整備
アクションプラン１０　主要観光施設の案内サインの整備

重点施策５　観光拠点の魅力向上

アクションプラン１１　「道の駅」の機能強化
アクションプラン１２　大仙市観光情報センターの機能強化

重点施策	アクションプラン		対応KPI					
			1	2	3	4	5	6
3 旅行者目線の情報提供	7	旅行行程のパッケージ発信	○	○	◎	◎	○	○
	8	農業体験メニューの情報集約による魅力向上	○	○	◎	◎	○	○
4 回遊性の向上	9	二次交通の体制整備	◎	◎	○	○	○	○
	10	主要観光施設の案内サインの整備	◎	○	○	○	○	○
5 観光拠点の魅力向上	11	「道の駅」の機能強化	○	○	○	○	○	◎
	12	大仙市観光情報センターの機能強化	○	○	○	○	◎	○

※対応KPI　1.主要観光施設入込客数　2.主要イベント入込客数　3.宿泊者数（全体）　4.外国人宿泊者数
【◎：関連性が高い】　【○：関連性が一定程度ある】

中心市街地の案内サイン・誘導サイン

大仙市観光情報センター
インフォメーションホール

主な内容	担当課
①観光物産協会HP内で旅行行程のモデルプランを発信する。 ②食事処の情報を地域分けした内容で複合的情報を発信する。 ③「観光地＋移動手段＋食＋宿泊」のベースプランを提示しながら、お客さまが組み換えながらベストチョイスができるようにする。	観光物産協会
①農業体験を観光物産協会で集約して発信する体制を確立する。 ②観光物産協会HPの充実を図り、農業体験コンテンツを取集・更新する。 ③大曲商工会議所、大仙市商工会などの会員などから広くコンテンツの収集を図り、訴求力のあるコンテンツを積極的に掲載する。	観光物産協会
①二次交通トライアル事業 ・今ある二次交通として、観光タクシーのPR促進を行う。 ・観光地までの二次交通の需要調査を行い、ルートを検討する。 ・二次交通の試験運行を行い、利用状況を分析・検討する。	まちづくり課
①旅行者の行程を考慮し、自動車・徒歩の移動方法に応じた看板を設置する。 ②既設看板の修繕・更新を行う。 ③多言語対応の観光看板、施設内看板の整備を行う。	観光課
①人気道の駅の先行事例調査と情報共有を行う。 ②アンケートや需要調査に基づき、魅力的な売り場づくりを行う。 ③道の駅パンフレットの作成を支援する。 ④道の駅内の観光案内機能の強化を図る。	観光課
①インフォメーションホールのリニューアルを実施する。 ②基本的な観光情報に加え、旬な大仙市の見どころを発信することで、本市に「来る気」にさせる情報提供を行う。 ③カフェスペース等の設置による快適性の向上を図る。	観光課

5.大仙市観光物産協会のお土産品売上額　6.道の駅3駅の売上額

▶基本方針3：満足してもらう♪ （観光コンテンツの開発）

重点施策６　「イベント」と連携した通年観光への誘導強化

アクションプラン１３　イベントと連携した情報発信
アクションプラン１４　スポーツ大会参加者等向け市内観光ツアーの実施

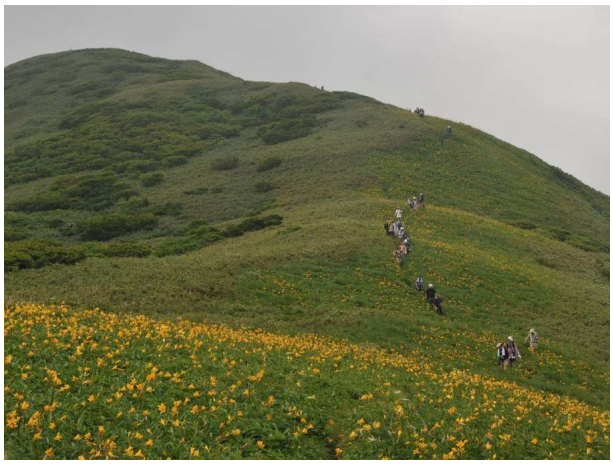
重点施策７　「体験」重視のコンテンツ開発

アクションプラン１５　市民を巻き込んだ誘客イベントの開催支援
アクションプラン１６　真木真昼県立自然公園と周辺の自然を活用した誘客事業
アクションプラン１７　観光関係団体との連携強化による観光素材の掘起し

重点施策	アクションプラン		対応KPI					
			1	2	3	4	5	6
6「イベント」と連携した通年観光への誘導強化	13	イベントと連携した情報発信	○	◎	◎	◎	○	○
	14	スポーツ大会参加者等向け市内観光ツアーの実施	○	◎	◎	◎	○	○
7「体験」重視のコンテンツ開発	15	市民を巻き込んだ誘客イベントの開催支援	◎	◎	◎	○	○	○
	16	真木真昼県立自然公園と周辺の自然を活用した誘客事業	◎	○	○	○	○	○
	17	観光関係団体との連携強化による観光素材の掘起し	◎	○	◎	◎	○	○

※対応KPI　1.主要観光施設入込客数　2.主要イベント入込客数　3.宿泊者数（全体）　4.外国人宿泊者数
【◎：関連性が高い】　【○：関連性が一定程度ある】

イベント会場での観光PR



真木真昼県立自然公園のニッコウキスゲ

主な内容	担当課
①全国花火競技大会をはじめとした四季の花火や、スポーツイベント、刈和野の大綱引きなどの全国的イベント周知の際には、他イベントや観光コンテンツを併せて情報発信を行い、各々のイベントの知名度を高める。 ②大会開催中や来場者向けに情報を発信し、市内周遊の契機とする。	観光課
①スポーツイベント（500歳野球、スポーツ合宿等）参加者向けの周遊プランを提供する。 ②企業や飲食店からの協賛・協力のもと、大会プログラムや飲食店マップにクーポン券等の特典を加えることで、滞在期間中、市内飲食店や観光施設等を訪れもらい本市の魅力を発信につなげる。	スポーツ振興課
①大仙市地域イベントプロモーション事業を行う。 ②花火玉カーリング普及事業を行う。	まちづくり課
①大仙市の魅力発信のアイコンとして「真木真昼自然公園」の風景を押し出していき、県外認知度の向上を図る。 ②親子で参加できるトレッキング教室や山登り教室を開催し、次世代の人材育成や後継者の確保へつなげる。 ③大台スキー場の魅力向上と情報発信を行う。	観光課
①仙北市や美郷町と連携した「大曲仙北観光圏域推進協議会」を活用し、一層強化した「広域観光」を推進する ②市内観光施設間での情報共有を図り、それぞれの周辺観光情報を補完しあい情報発信力を強化する。 ③観光を産業として発展させるための新たな組織づくりを行う。	観光課

5.大仙市観光物産協会のお土産品売上額　6.道の駅3駅の売上額

▶基本方針3：満足してもらう♪ （観光コンテンツの開発） つづき

重点施策８　観光資源の魅力づけと旅行商品開発に向けた取り組み

アクションプラン１８　市内周遊コンテンツの開発
アクションプラン１９　街歩きコンテンツの充実
アクションプラン２０　文化観光の推進

重点施策９　サービス力の向上

アクションプラン２１　おもてなし人材育成と体制整備
アクションプラン２２　大仙市食の定番メニューづくり

アクションプラン			対応KPI					
			1	2	3	4	5	6
8 観光資源の魅力づけと旅行商品開発に向けた取り組み	18	市内周遊コンテンツの開発	◎	○	◎	◎	○	○
	19	街歩きコンテンツの充実	◎	○	◎	◎	○	○
	20	文化観光の推進	◎	○	◎	◎	○	○
9 サービス力の向上	21	おもてなし人材育成と体制整備	○	○	◎	◎	◎	◎
	22	大仙市食の定番メニューづくり	○	○	◎	◎	○	○

※対応KPI　1.主要観光施設入込客数　2.主要イベント入込客数　3.宿泊者数（全体）　4.外国人宿泊者数
【◎：関連性が高い】　【○：関連性が一定程度ある】

旧池田氏庭園のモニターツアー

主な内容	担当課
①市内道の駅を拠点とした周遊コースを企画する。 ②大曲駅発着型観光（鉄道利用プラン）、大仙市周遊型観光（「ストーリー」によるパッケージ化）、体験型観光プランなど、目的・ターゲットごとに集客が見込めるプランを作成し、旅行商品開発を行う。 ③ワーケーションを見据えた、市内周遊コンテンツの情報提供を行う。	観光課
①駅からはなび・アムまでの間に居心地のよい、歩きたくなる散策コースと休憩スポットの整備を目指す。 ②新たに整備される刈和野駅周辺の散策コースの充実を地元商店街の協力を得ながら実施する。 ③角間川、羽後長野、神宮寺など古い町並み、酒蔵のある町並みでの街歩きコースを設定する。	観光課
①地域の歴史や文化施設・伝統文化等をストーリー仕立てに構成し、「文化観光パッケージ」として、ガイドツアーを行う。また、SNS等を活用しながら魅力を広く発信することにより、見学者数の増加を目指す。 ②各種の取り組みによる、文化財観光の推進により得られた経済効果が、地域の文化振興に再投資されるサイクルを創出する。 ③文化観光資源の中でも、旧池田氏庭園を文化観光パッケージの主軸に設定し、様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを推進する。	文化財課
①「各観光地のおもてなしマイスター紹介・手配システム」 ・観光ガイドの対応可能な観光地を紹介するとともに、手配予約も行う。 ・おもてなしマイスターの確保と育成のため、講習会開催や周知啓発活動を実施する。	観光物産協会
①市内酒造会社や麹屋等の発酵関連企業と連携し、大仙市の農畜産物を使用した麹商品を開発する。 ②市産の米・酒・発酵食品が提供される環境を整備するため、発酵食品を使用したメニュー開発及び市内飲食店におけるメニュー提供を推進する。 ③「大仙市うまい米・うまい酒」都市宣言により国内外へ向けたPRにつなげる。	農業振興課

5.大仙市観光物産協会のお土産品売上額　6.道の駅3駅の売上額

第5章　観光振興計画の推進

1　連携と協働による効果的な取組の推進

本計画に基づく事業は、本市のほか、（一社）大仙市観光物産協会や大曲商工会議所、大仙市商工会、大曲青年会議所等の各種団体、県や関係市町村、民間業者、市民等の多様な主体による連携と協働の体制で推進します。また庁内各部局や関係機関で行ってる事業の共有を行い、効果的・効率的な観光誘客・観光消費につなげていきます。

2　計画の進捗管理

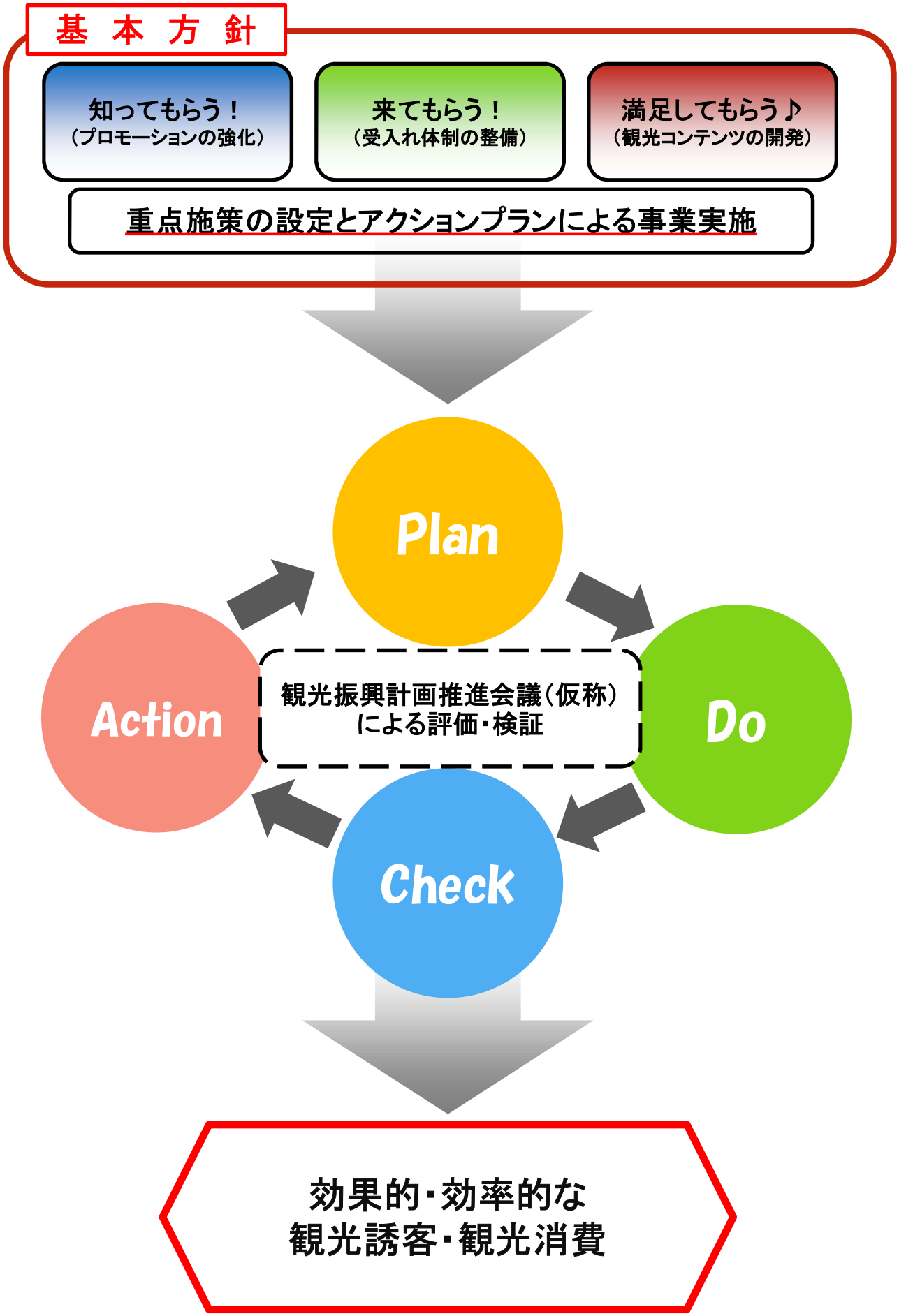
本計画の進行管理は、毎年度事業の実施状況や実施状況などを把握しながら、適切な進行管理を行います。

本計画の基本方針、重点施策項目、アクションプランに基づき、各事業を設定し、その結果の評価も含め毎年検証を行います。

本計画に基づく観光施策の進捗に関しては、施策の実行性を高めていくため、実施する事業について、アクションプラン単位での事業実施結果分析を行いPDCAサイクルに基づき計画的な進捗管理を行うとともに、適切な・評価検証を行います。

3　計画の評価体制

本計画の評価体制として、本計画にかかる策定組織を母体とした「大仙市観光振興計画推進会議（仮称）」を立ち上げ、具体的な取組状況の進捗状況の把握や、評価・検証、意見交換等を行う体制を構築します。


基 本 方 針
知ってもらう！
（プロモーションの強化）
来てもらう！
（受入れ体制の整備）
満足してもらう♪
（観光コンテンツの開発）
重点施策の設定とアクションプランによる事業実施
Plan
Do
Check
Action
観光振興計画推進会議（仮称）
による評価・検証
効果的・効率的な
観光誘客・観光消費